

札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会

第12回 総会

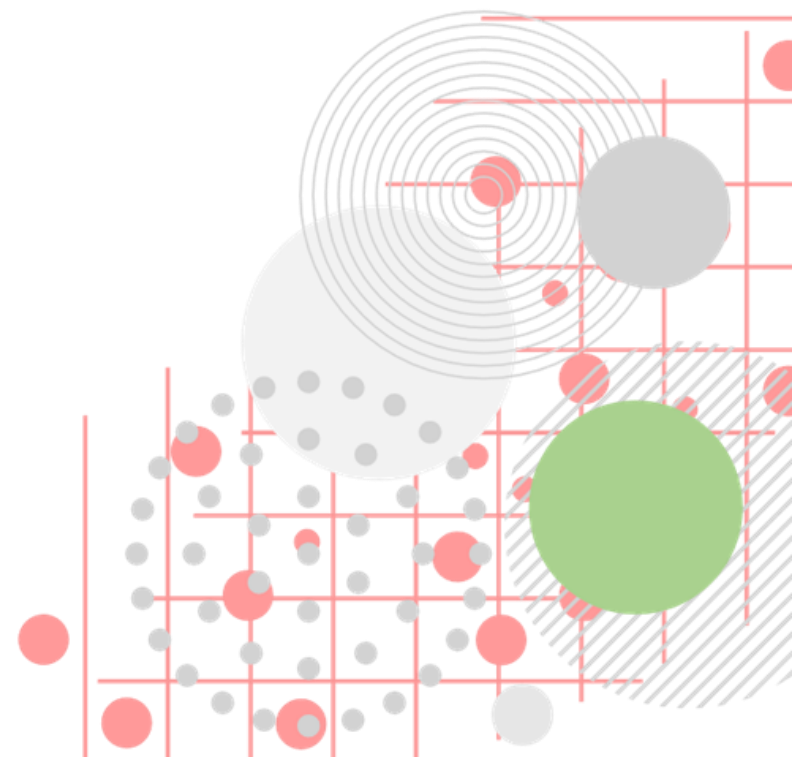
【 本日の議題 】

- ・ 次期運営計画の策定について(5)

令和7年7月17日

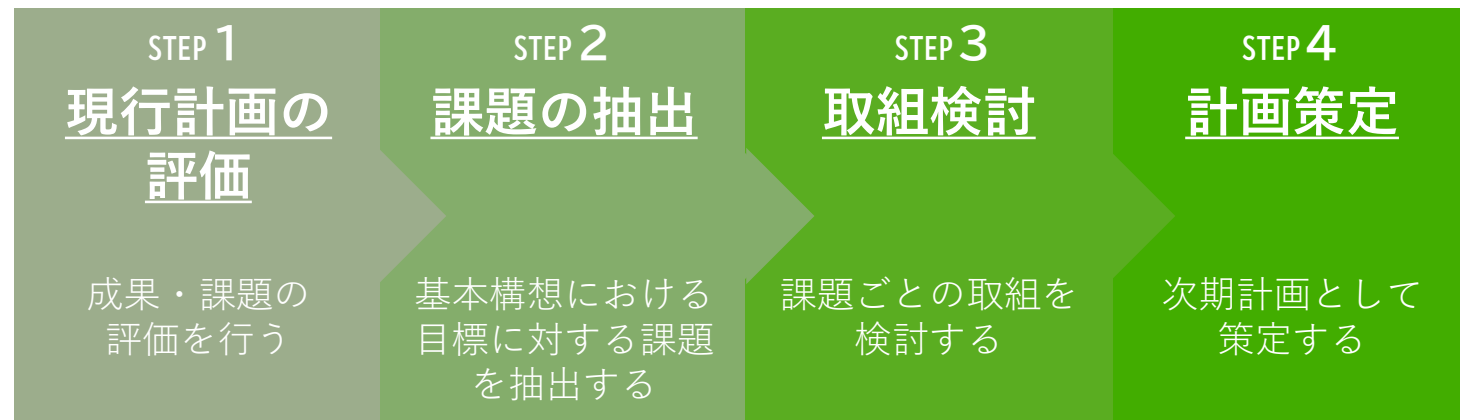


次期運営計画の策定について(5)



次期運営計画の策定について – 策定までの流れ –

【次期運営計画策定の流れ】



【スケジュール】

年度	2024					2025												2026
月	4～6	7～9	10～12	1～3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4～6	
工程		札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会 ●第8回(9/12)●第9回(2/28)●第10回(5/23)●第11回(6/20)●第12回(7/17) 現行計画の評価 課題抽出・取組検討 計画案の検討・確定					庁内調整				●議会報告	パブコメ		★計画策定				

次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【計画策定の目的・趣旨】

No.	ご意見	回答	ページ
1	お墓の問題は子や孫への負担よりも、承継者がいないことが主な理由であり、そのことを記載するのが良い。 (澤委員)	承継者がいないという理由に修正しました。	7

【No.1関係】7ページ 計画策定の目的・趣旨

一方で、新型コロナウイルス感染症の経験を経て、葬儀は少人数で行われる直葬や家族葬を希望する人が増えたり、お墓は**承継者がいないために**合葬墓や樹木葬が人気を集めるなど、市民ニーズが急速に変化し、新たな課題が生まれています。



次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【市民の意識醸成】

No.	ご意見	回答	ページ
2	発信・把握したい内容について、漠然としたものでなく、具体的な内容を膨らませて書く方が良い。 (皆川委員)	発信・把握したい内容について、具体的な内容を例示する形で記載しました。	44、45
3	終活という言葉は、時代によって意味が異なってきたため、計画ではあまり使わない方が良いのではないか。(福田委員)	基本構想や1次計画と同様に、終活についての脚注を付け、計画の中での定義を明確にします。	17
4	若い人を対象とするのであれば、「終活」イベントではなく、名称を見直した方が良い。(上田委員) 全世代に広げて意識を持ってもらうために、我々は終活という言葉を使わないというのは、分かりやすいメッセージの1つであり、うまく計画に盛り込むことで、意識が伝わるかもしれない。(石井委員)	近年は「終活」ではなく「生き活」「デス活」など多様な表現がされることを記載しました。また、成果指標における表現は、単に「イベント」としました。	45

【No.2関係】44ページ アンケート調査の実施

葬送に関するワークショップやサロンなどの各種イベント開催時に、参加者アンケートを行うほか、定期的にインターネットアンケート調査を実施し、市民が、自分や家族・親族が亡くなった時のことをどのように考えているか、そのために行動したり準備しているか、その際に知りたいことは何か、また実際に葬送を経験して困ったことはあったかなど、市民の葬送に対する意識や需要を把握します。

45ページ 火葬場・墓地に関する周知・啓発・対話

そのため、引取者のない遺骨の増加等の今後の社会状況の変化によって起こる問題や、火葬場の建替や改修、市営霊園・合葬墓の整備、無縁墓の増加など、火葬場や墓地等の抱える問題やあり方・制度等について周知していきます。

次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【市民の意識醸成】

No.	ご意見	回答	ページ
5	大学生であっても、将来の話ではなく、身近な話として投げかければ返ってくる。(澤委員)	各ご意見は、今後の企画の参考にさせていただき、2次計画では具体的内容は記載せず、企画を検討するといった記載に留めます。	—
	葬送は若い人にとっても身近であるという前提で考えることが大事かもしれない。(石井委員)		
	若い人は、自分自身の死との向き合い方について悩んだ経験がある人もいて、終活とは異なる形で死に関するイベントに関心を持っている。(上田委員)		
	婚活と連動して終活イベントを開催すれば集客もできて良いのではないかな。(堂本委員)		



次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【多死社会に対応した火葬場】

No.	ご意見	回答	ページ
6	友引の平均火葬件数の目標値は、自然に到達するものでなく、施策を打って達成されるものにすべき。 (廣部委員)	友引の平均火葬件数については、目標値の設定が難しく、標準偏差は見た目に伝わりにくいというデメリットがあります。 そのため、「平均火葬件数に対する友引翌日の平均火葬件数の割合」を新たな案として提案します。 詳細は8ページです。	—
	友引の平均火葬件数の目標値について、30件というのは難しいと感じる。自身が気にしない人でも、周りの人の意見を聞いて、友引には火葬したくないという人が意外と多い。(中島委員)		
	15件など控え目な数字を設定し、慎重に始めて徐々に増やしていくというニュアンスを上手に出すというやり方もある。(石井委員)		
	火葬場利用の平準化が目的であれば、標準偏差を指標にするのが最も客観的である。(上田委員)		



多死社会に対応した火葬場の成果指標について

【友引の日の平均火葬件数(目標値:30件)に対していただいた意見】

- ・ 目標値は自然に到達するものではなく、施策を打って到達するものにすべき。
- ・ 目標値30件というのは難しいと感じる。自身が気にしなくても、周りの人の意見で友引に火葬したくないという人が意外と多い。
- ・ 15件など控え目な数字を設定することで、徐々に増やしていくニュアンスを出すやり方もある
- ・ 火葬場利用の平準化が目的であれば標準偏差を指標にするのが最も客観的である。

【参考:標準偏差】

データのバラつきを表す統計的な指標。
数字が大きいほどバラつきが大きい。

$$\sigma = \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \mu)^2}$$

σ :標準偏差
 n :データの個数
 x_i :i番目のデータの値
 μ :平均値

① 友引の日の平均火葬件数

現在値
火葬なし
(友引は休場)



目標値
15 件

(目標値の考え方)
控え目な数字を設定し、増えていくよう努める

② 友引の日以外の日の標準偏差 ※季節変動という構造的なバラつきを含む

現在値
20.0 件



目標値
12.1 件以内

(目標値の考え方)
友引が休場のために件数が増える友引前日及び友引翌日
を除いたデータから算出した標準偏差を目標値とする

③ 平均火葬件数に対する友引翌日の平均火葬件数の割合

現在値
134.7 %



目標値
117 %以下

(目標値の考え方)
平均より多い火葬件数を半分に減らすことを
目標とする

平均火葬件数: 26,421件 ÷ 305日 = 86.6件/日
友引翌日の平均火葬件数: 6,884件 ÷ 59日 = 116.7件/日

※友引翌日の平均火葬件数101件以下で目標達成



次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【少子高齢社会に対応した墓地】

No.	ご意見	回答	ページ
7	1次計画の評価について、現在値が「検討中」のものが複数あるが、評価がBのものとCのものがあるので、評価が異なる理由を記載した方が良い。 (皆川委員)	下部に注釈を記載しました。	16
8	1次計画では合同納骨塚の上限は33,120体だったが、2次計画案では2025年度に33,550体と記載されて超えている。1次・2次計画の整合性を保つためにも、合同納骨塚の収容数超過に関する対応策を明記すべき。 (福田委員)	現在の合葬墓について、埋蔵可能数を増加させる措置を行うことを記載しました。	35、61
	新しい合葬墓の完成までの暫定対応を含め、第2次計画には、時期的な制約や対応策を明確に記載すべき。 (石井委員)		
	合葬墓については、満杯になるのを心配している市民が多くいるため、対応を記載できるのであればの方が良い。 (澤委員)		

【No. 8関係】 35ページ 問題点を踏まえた今後の考え方

現在の合葬墓に対する埋蔵可能数を増加させるための措置や新たな合葬墓の設置などにより、切れ目なく市民が合葬墓を利用できる体制を整備します。

61ページ ウ 新たな市営合葬墓の設置等

現在の合葬墓は、近い将来受入可能数に達する見込みであることから、**埋蔵可能数増加のための措置を行います**。また、抜本的な対応として新たな合葬墓を設置します。

次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【少子高齢社会に対応した墓地】

No.	ご意見	回答	ページ
9	火葬件数と引き取り手のない遺骨の割合のグラフを載せてもらったが、引き取り手のない遺骨は実数もあった方がよい。併せて、説明文も入れて、市民へ周知していくことも記載すべき。 (福田委員)	引取者のない遺骨の数を掲載し、説明文を追加しました。また、市民へ周知していくことについて記載しました。	33、34、 45
	引き取り手のない遺骨の割合は0.4%や2%のため、実数でグラフに載せると見えなくなってしまう。 (上田委員)		
	パーセンテージで記載されても市民はピンと来ないのではないかと。グラフでなくて良いので、どこかに実数を入れるべき。 (福田委員)		

【No. 9関係】 33ページ 市営合葬墓に対するニーズの高まり

一方で、引取者のない遺骨についても、年々件数が増えており、火葬件数に占める割合も増加傾向にあります（表3-3-4、表3-3-5）。平成26年度（2014年度）には215件で1日1件に満たない程度でしたが、令和6年度（2024年度）には768件に上り、平均すると1日に2件以上引取者のない遺骨が生じています。



次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【少子高齢社会に対応した墓地】

No.	ご意見	回答	ページ
10	現行の表現は、誤解を招く可能性があるため、31ページの「民間墓地経営者との連携の下、市民ニーズに対応した適切な墓地供給を推進します。」ぐらいの書き方にした方が良いと思う。 (上田委員)	市民ニーズ等を考慮しながら墓地供給のあり方について検討し、再公募等を実施していくという記載に修正しました。	36、62
	市の方針は、新設の場合の話であるため、ここに出すべきではない。市民ファーストの方針に反するような表現は避けるべきであり、民間事業者への配慮は当然としても、市民ニーズを最優先する姿勢を明確にすべき。 (石井委員)		
11	「返還」の横に「墓じまい」という言葉があるが、墓じまいを行政が指示するようになってしまう可能性があるので、「返還」だけで良いのではないか。 (高橋委員)	「墓じまい」という言葉は削除しました。	36

【No.10関係】 36ページ 問題点を踏まえた今後の考え方

市民ニーズ等を考慮しながら、市営霊園としての墓地供給（再公募等）のあり方について検討し、再公募等を実施していきます。



次期運営計画の策定について – 前回いただいたご意見 –

【少子高齢社会に対応した墓地】

No.	ご意見	回答	ページ
12	再公募の際に、旧設墓地使用者に移ってもらい、整理していくという方法を検討してみてはどうか。 (高橋委員)	具体的な方法は、2次計画期間中に検討を進めたいと考えています。	—
13	すぐに出来ないとしても、公園化を視野に入れて検討するなど、方向感が出るように書かないと、何をするのか分からない。どういう方向に持っていくかを記載し、その中身を2次計画中に考えていくという話にできれば良いのでは。 (石井委員)	旧設墓地の維持管理方法や市民利用のあり方について、多角的に検討することを記載します。また、「方針を決定します」と記載しました。	68
	旧設墓地については、将来の方向性や課題など、具体的な計画を明示すべき。 (堂本委員)		
	旧設墓地については、スケジュールにも「維持管理方針の検討・決定」とあるため、本文にも「土地利用や計画について検討し決定します」や「計画を策定します」と記載すべき。 (上田委員)		

【No. 13関係】 68ページ 旧設墓地の維持管理方法のあり方検討

安定的な旧設墓地の維持管理を実現するため、市営霊園の管理料導入後の状況も参考に、**旧設墓地の維持管理方法や市民利用のあり方について多角的に検討し、方針を決定します。**